

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100469		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	グループホーム よつば荘		
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦一丁目59番地		
自己評価作成日	平成24年8月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ざっくばらんで、家庭的な雰囲気の中でスタッフと入居者様の関わりが密であり、笑ったり、ときには怒ったり、ずっといっしょにいる家族のように関わりがおこなわれている。冷凍食品はほとんど使用しなく、ほぼ毎日、食材を買出して調理している。日々のメニューはとくに設定されていない、今日はどんなごちそうかな・・・と楽しみにされている、利用者さんもうらっしゃる。スタッフの年齢層も幅広く、祖父母・父母・孫とごく一般家庭の雰囲気で過ごしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年10月2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小牛田駅近くを流れる川に沿って整備されたインターロッキングの道に面して木造2階建てのよつば荘がある。1階はグループホーム、2階は宅老所の泊まりの施設である。管理者は「アットホームな暮らしがホームの特徴で、いつも楽しげな会話や笑顔が見られ、安心して生活できるように支援している」と話している。支援の特徴はケアマネジャーが作ったケアプラン実施表(健康管理・外出対応・不安の緩和・行事活動の参加・下肢筋力低下防止)に見られる。各項目に付、職員が毎日チェックして、現状維持ができるように話し合っている。レクリエーション担当が考えた魚釣りが好きな人の思いを汲んだ魚釣りゲームは好評で皆が楽しんでいた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム よつば荘)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初の理念を解り易い表現で表すように検討中である。	開設当初のホーム理念を踏まえて、皆がケアの指針としている。「安心」「和・なごみ」「一日一笑」を提案し、地域との交流も視野に入れ、職員と話し合い、ケアに反映し振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週、日曜日に近くで行なわれている朝市などスタッフと散歩がてら行ったり、地域の夏祭り・敬老会にでかけている。	毎月1回地域の民謡の先生がボランティアで来てくださる民謡教室があり、ホームの敬老会で発表している。今年、秋の芋煮会は地域の方々にもチラシでお誘いしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などとおして、発信できるようにつとめている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、利用者さんの近況報告・活動内容の報告、情報交換をおこなっている。今年度より地区の民生委員さんにも参加していただいている。	会議は震災の影響もあり、5回の開催であった。地域包括の参加が4回ある。民生委員がメンバーに加わり、地域高齢者の情報もある。入居者が皆をもてなすように家族へ指示する場面も見られ、会議が和んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を取り合い、居室の空き状況などにより、入居者の紹介をいただいている。	研修の案内をいただいたり、防火設備申請時のアドバイスを頂いたりしている。介護保険改正時は書類(書類が判り難いので)をダウンロードして持ってきて貰ったり、状況により相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々、利用者さんの行動・所在を把握し施錠を含め拘束しないように取り組んでいる。	ベットで転倒が懸念される人は布団で対応している。外出傾向のある人は行動パターンを把握し、見守りと対話を心がけている。言葉遣いは特に相手が不快な思いをしない様に職員同士注意してケアにあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の利用者様にたいする言葉づかい、対応の工夫など、ミーティングなどはなしあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料をもとに、話し合う機会をもち勉強会をもつ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度4月より介護保険一部負担額の改正時、文章等により承諾書を取り理解していた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の会話などで、話しやすい雰囲気の中で機会をもうけている。	行政区長、地域包括センターが今年度から苦情、相談窓口を重要事項に加えた。面会時、日頃の様子や衣類交換について話し合ったり、通院の付き添いを家族にお願いしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどにより話し合い、意見を反映している。	職員は食事(献立、調理)・装飾・レクリエーション・広報の担当があり、それぞれ、自分で企画・提案し、職員のミーティングで発表、それぞれの業務に責任を持って携わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談などを通じて意見交換し、より良い職場環境につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加できる機会をもうけている。日々のケアをとおしてすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	パンフレット持参の際当事業所の案内をかね、近況の情報交換や、実調を兼ねて情報交換につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普通の会話などで、話しやすい雰囲気の中で機会をもうけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時など家族のかたと個別に話しあえる機会をつくり、より良い関係で接していける様につとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況を把握しニーズを検討し対応につとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	不安を和らげ安心して暮らせるように、利用者さんとかかわりを持ち接していけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のおかれている、環境や状況をふまえて、関わりをもてるようにつとめている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	H23年末より、よつば壮新聞を発行し、情報を発信している。	友達が尋ねて来て一緒にドライブにいたりしている。2階の宅老所に顔なじみの理容師さんが居て、希望の人はお願いしている。「よつば荘新聞」は家族にも喜ばれている。友人宅にお茶のみに出かける人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事等で利用者さんどうし関わりあう機会をつくり、また入居者さまがたがスムーズに行かない場合、間にはいり歩みよれるようにサポートに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了後も家族の方々が訪ねて来られたりして世間話などされて過ごしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成に伴い本人の思いや考えを重視しプランに反映していけるように検討している。	「歩くようになりたい」難しい課題ではあるが、朝夕に歩行訓練を取り入れている。「皆の役に立ちたい」と沢山のトレットペーパーを畳んで持って来る方も有り、思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	紹介のあった居宅ケアマネや包括、家族より情報収集し把握につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身の状態の変化を観察し現状にあったケアが出来るようにつとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアを通して、スタッフとも情報交換しつつ本人の思いを引き出しながら、定期的にモニタリングをこない、作成している。	毎朝のミーティングで統一したいケアはボードに書き出し情報を共有している。3~6ヶ月に1回ケアプランを見直し、面会時説明承認をもらっている。糖尿病の入居者は血糖値測定など医師との連携も密にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施状況を日々記録し職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんの日々の変化をはあくし、その状況により、対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の生活にも変化をもたせ、良好なせいかつが出来るように、スタッフ全員が気をくばっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者を中心に、付き添い受診しており家族に報告し、適切な対応をしている。	ほぼ協力医が主治医である。1人家族受診の方がいるが、異常がある場合は管理者も付き添う。家族への報告は電話や口頭で行われ、ケース記録に記入している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことも、報告しあい適切な受診をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	平日・時間外に関わらず受診しており、十分な理解と協力があると確信している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態により、状況を家族に伝え説明し対応につとめている。	過去に2例看取りをしているが、近年看取りは実施していない。終末期の段階で話し合いの上、いただく同意書の準備はある。今後運営推進会議で看取りについて話し合いの上、再度取り組みの検討をしている。	看取りについて、入居者や家族の意向を確認し、訪問医療、訪問看護など視野に入れながら、看取りの指針を作成し、医療、ホーム、家族の協力で再度看取りができるよう取り組みしていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングなどにより話し合い、対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知器による訓練、年2回の実施している	今年度自動火災警報器を設置した。年2回(1回夜間想定)の訓練では近隣の方が参加して誘導、見守りをしてきている。年1回防災設備の定期点検を実施している。スプリンクラーは未設置である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の生活観を否定せず尊重し、会話する上でも傾聴し言葉に気をつけ接するように努めている。	職員サイドの常識で物事を進めることなく、入居者の生活感を理解し対応することに心掛けている。こホーム便りの写真についても確認を得ている。言葉で入居者が不穏にならないように声掛けに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、本人の思いを引き出せるように、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせ残存能力をいかしていただけるように、その方の意見も尊重しながら、一緒に自室の片付けなどをされている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容は本人の希望に沿い、対応。又購入など随時、対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好物など把握し、食べやすさ、見た目を意識し提供している。	季節の食材を取り入れた献立で手作り、やわらかさや盛り付けに気を配っている。入居者は片付けやテーブル拭きなど手伝っている。今後、献立を市の保健師に相談するなどしていただきたい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は日々の記録によりおおよそ把握、調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝時、声かけや一部介助にて対応し、毎食後、自主的におこなっている入居者さんもいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握、トイレでの排泄がおもである。	一人ひとりの排泄パターンを記録し声がけ誘導している。トイレでの失敗が無いように使い方を職員で検討している。夜間は起きてくる方に対応、安眠を重視してパット等に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたメニューが主になっている。ヨーグルトによる調整もこころみている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体状況により、週2回以上入浴の実施。	月1回体重測定(職員の提案)、入浴時毎回、バイタル、全身状態のチェックを行う。浴槽に入ることが困難な方はシャワー浴に変更したりしている。一番風呂が好きな方・同性介助など希望に添って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握し、それに沿って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化には日々申し送りしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に一度の民謡教室・季節の行事など、気分転換につとめている。また自室においては本人らしい空間造りにつとめ個性を活かせる様に工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族・面会者との外出の機会も以前より多くなってきている。	天気の良い日は外気浴も兼ね近隣の公園まで散歩している。冠婚葬祭、お墓参りは家族が迎えに来て出かけている。車での外出は、買い物やお花見(素山公園、コスモス園、三本木ひまわり)である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いについては、基本的にはホームで管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望ある時、TELなどの支援おこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・廊下などは季節の花など飾っている	台所、食堂兼居間でいつでも寛いでいるような茶の間である。玄関には季節の花が飾られ廊下は手すりを利用した歩行訓練場所(歩行訓練表が貼ってある)にもなっている。また廊下に祭りの様子など写真が貼ってあり、ホームの様子が伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビ視聴・他利用者さんの居室をたずねたり、各自好きなようにされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各室エアコン設置など環境を整え、個々の個性を表現した、その人らしい部屋づくりに努めている。	使い慣れた筆筒や御主人のお位牌、写真を持ち込んで、30分も御主人に話しかけている入居者もいる。手芸の好きな職員から入居者に送られた小物や動物の写真が壁に飾られており愛らしい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の自力移動の安全をはかり廊下・トイレにバーを設置、各室にカレンダー・湿度計をそなえている。		